
悪戯

市丸乱菊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪戯

【Nコード】

N7791H

【作者名】

市丸乱菊

【あらすじ】

十番隊はいつも涼しい理由は・・・？そして松本乱菊が行った悪戯とは・・・

ここは十番隊隊舎の執務室。

「あーーーーー」。

あついーーーーっ。

夏は嫌いだーーーーっ!!!!」

仕事をしながら、汗をかいている日番谷隊長。

彼は水さえあれば簡単に氷にできる斬魄刀”氷輪丸”を持っている。

対氷の相性なのかはわからないが、暑いのは苦手だそうです。

夏場の仕事もちろんちゃんとしています。

その秘密は……

椅子の横に水の入ったバケツを置いて、

「霜天に坐せ『氷輪丸』」（戦いするときほど力強くはない言い方）
みるみるバケツの中から竜の姿の氷になります。

「おー涼しい……さて、仕事するか……。」

これが日番谷流のクーラーです。

溶けたらまた繰り返しです。

本当に便利な能力です。

そして仕事が終わった日番谷隊長。

ようやくお昼寝の時間です。

身長が伸びない彼が毎日やってる日課です。

さぼりに行ってしまった松本副隊長のことはほっというて昼寝タイム。

氷輪丸をソファーに立てかけました。

すぐに寝てしまいました。

そこに帰ってきた松本副隊長。

「ただいまーたいちよー。」

ねーたいちよー。カキ氷作ってくださいよー。」

松本がソファーに行くと、おねむの日番谷隊長。

「えー。たいちよー・・・もうお昼寝の時間なのお？残念ねえ・・・」

ふと・・・

松本副隊長の遊び心が・・・

「ふぁーーーーーーっ。よく寝た・・・」

思いつきり背伸びをする日番谷隊長。

「あれ？松本・・・戻ってたのか・・・・・・・・」

「とっくに戻ってますよー。」

「仕事は進んだんだろうな・・・・・・・・」

「もちろんですよー」

日番谷隊長が隣にたてかけてあるはずの氷輪丸のところに手を伸ばしましたが何も無い。

「あれ？」

ソファーから下を覗き込む。

「!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

氷輪丸の鞘だけは転がって、その中から水が出て、その鞘の周りは水浸しに・・・・。

「氷輪丸が溶けてるっ！?!?」

青ざめる日番谷隊長。

「あれーっ。たいちよー暑いから氷輪丸が溶けた??
本体氷だったんですねー。納得。ウン

それか、たいちよーがしょうもないことに使ってるから拗ねちゃったとかw」

おもしろおかしく松本副隊長。

「えっ？そうなのか・・・」

心当たりがある日番谷隊長。

それを見ていた松本副隊長。

笑いがこらえきれない。

「まさか・・・松本・・・。」

「はっ！しまった・・・w」

「まーっつーっもーっとおおおおおっつっ！...!!」

「だってたいちよーが信じてるから可愛くって」

「氷輪丸を戻せ!!」

「はい・・・」

それから松本副隊長は30分ほど説教をくらいましたが、

合間に喜んで逃げていきましたとち。

「ま——っ——も——と——っ——！……！」

終わり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7791h/>

悪戯

2010年10月10日07時06分発行